

## 魚沼基幹病院 倫理審査委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	組織特異的遺伝子を指標とした組織再生・修復部位の評価
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	<p>当院にて行われる人工関節置換術などで切除・廃棄される骨軟骨片を主な対象とし、必要に応じて他の切除・廃棄組織（半月板、靭帯、滑膜、脂肪組織など）も対象とする。</p> <p>「関節軟骨修復に寄与するマイクロ RNA の探索」代表：目良恒</p> <p>「ヒト関節軟骨の力学特性に関する低侵襲評価法の研究開発」代表：目良恒</p>
③ 概要	<p>関節軟骨は自己修復能が低く、損傷軟骨の根本的な組織治癒を期待できる方法は存在していない。我々は文科省科研費・基盤（C）課題番号 18K09021「関節軟骨修復に寄与するマイクロ RNA の探索」（代表：目良）にて幹細胞を用いた再生軟骨を作成し、その軟骨分化度（どれだけ正常軟骨に近づいているか）を制御しているマイクロ RNA の探索を試みている。その際、軟骨分化度の指標として組織特異的遺伝子を用い、その発現量を定量 PCR で評価する。</p> <p>我々は既に「ヒト関節軟骨の力学特性に関する低侵襲評価法の研究開発」にて人工関節置換術などで切除される骨軟骨片を用いた研究を試みている。これらの組織は異常部位だけでなく正常部位も含まれることがある。今回、同様に治療で破棄される骨軟骨片などの切除組織を用い、各組織に特異的な既知の遺伝子を検出し、上記定量 PCR 実験の対照（コントロール）とすることで、その実験系の確立を行う。これと並行して切除軟骨そのものの組織学的評価と遺伝子発現を部位別（正常部位、損傷部位、修復部位など）に比較し、組織切片各部位の定量評価法の確立も試みる。</p>
④ 申請番号	O1-O18
⑤ 研究の目的・意義	<p>外傷・疾患・加齢による関節の変性・破壊性変化は患者に ADL 制限を強いることになる。再生軟骨および損傷部位・修復部位の遺伝子定量を行うことで、より客観的な評価が可能になると考えられる。本研究では、治療上切除される試料を用い、組織特異的遺伝子の定量 PCR の実験系の確立を行い、組織の定量的評価につなげ、関節軟骨再生・修復研究に応用することを目的とする。</p>
⑥ 研究期間	2019年9月～2021年3月
⑦ 情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	<p>当院で切除・廃棄される組織片をその場で研究用試薬（RNA later）に浸漬させ、新潟大学医学部整形外科に、申請者らが通常の方法を用いて搬送する。RNA 抽出は大学院生・実験技術者などの研究協力者と共同で行う。</p>
⑧ 利用または提供する情報の項目	<p>人工関節置換術などで切除・破棄される、骨軟骨片および滑膜・半月板・脂肪組織とその性状についての情報を利用する。採取する組織の組織学性状と、各組織に特異的と考えられる既知の遺伝</p>

	子発現量を定量することを目的とするため、個人情報に含まれない。
㊟利用の範囲	研究代表者：魚沼基幹病院整形外科 目良 恒 研究分担者：新潟大学医学部整形外科 谷藤 理 研究分担者：新潟大学医学部整形外科 富山泰行
㊟試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学地域医療養育センター・魚沼基幹病院 整形外科 目良 恒
㊟お問い合わせ先	目良 恒： hisme0214@gmail.com